

## 平成 27 年度 第 2 回土木計画学研究委員会幹事会 議事録

日時：平成 27 年 9 月 17 日（木）15:-00-18:00

場所：岡山市勤労者福祉センター

### ■ 出席者

委員長：桑原 雅夫（東北大学）

副委員長：久保田 尚（埼玉大学），赤松 隆（東北大学）

幹事長：羽藤 英二（東京大学）

学術小委員長：屋井 鉄雄（東京工業大学）

学術副小委員長：藤田 素弘（名古屋工業大学）

春大会運営小委員長：吉井 稔雄（愛媛大学）

H28 春大会開催校：内田 賢悦（北海道大学）

委員兼幹事：榊原 弘之（山口大学），大沢 昌玄（日本大学），鳩山 紀一郎（東京大学），出村 嘉史（岐阜大学），原 祐輔（東北大学），円山 琢也（熊本大学），織田澤 利守（神戸大学），長田 哲平（宇都宮大学），福山 祥代（国総研），三島あい（片平エンジニアリング・インターナショナル），塚井 誠人（広島大学），大西 正光（京都大学），林 淳二（土木学会）

### ■ 資料

- [資料 1] 平成 27 年度第 1 回土木計画学研究委員会幹事会議事録（案）
- [資料 2-0] 学術小委員会報告
- [資料 2-1-1] 2016 年度春大会準備状況
- [資料 2-1-2] 2016 年度春大会準備状況（建物配置図）
- [資料 3-0] 平成 27 年度土木計画学研究委員会幹事会 タスク役割分担（案）
- [資料 3-2] 平成 27 年度土木計画学研究委員会 名簿
- [資料 3-4] ホームページ修正・更新状況
- [資料 3-5] 土木計画学研究委員会国際セミナーについて（報告）
- [資料 3-6] 国際センター・出版委員会状況報告
- [資料 3-7] 幹事タスク報告：ワンデイセミナー・シンポジウム
- [資料 3-10-1] 調査研究拡充支援金の配分について（ご連絡）
- [資料 3-10-2] 26 年度土木計画学研究委員会 予算執行計画
- [資料 3-10-3] 1. 親委員会会計と行事関係の考え方
- [資料 4-1] 委託出版企画書
- [資料 4-2] 計画学 50 周年シンポジウム案

[資料 4-3] (参考資料) 計画学セッションプログラムについて  
[当日配布資料] 土木計画学研究発表会プログラム運営方針「改善」について

## 1. 開会

- 桑原委員長による開会挨拶の後、各委員が挨拶を行った。
- 資料 1 に基づき、前回の議事録を確認した。

## 2. 学術小委員会報告（報告者：屋井）

- [資料 2-0]に基づき、報告がなされた。
- 2015 年秋大会（第 52 回@秋田大学）関連
  - ✓ 前回幹事会での議論を踏まえ、研究発表会の活性化に向けた方策として、方法論横断（串刺し）セッションを設置することが報告された。なお、1 セッション発表 3 本、1 発表 30 分（通常セッションと同じ）とする。また、コメンテーターに関しては、依頼文に「司会者が司会兼コメンテーターとして一人でセッションを進行し、あわせて討議を活性化」する旨を明記することにより対応を図ったとのこと。
- 2016 年度秋大会準備状況
  - ✓ 11 月 4 日（金）-6 日（日）に長崎大学・長崎ブリックホールで実施予定。開催校の運営担当は、杉山和一先生（環境科学部）、冨田彰秀先生（工学部）。開催校における学生アルバイトの手配などにも留意してほしいとの意見があった。
  - ✓ 11 月 4 日（金）、長崎ブリックホールにて 50 周年記念イベント（2,3h）の実施を企画中。その後の懇親会はグラバー園での実施を予定。50 周年関連行事担当との連携・調整を図りながら進めることが確認された。
- 運営組織の再編については
  - ✓ 「大会プログラム運営方針改善に関する提案（議題 4-3、発議者：赤松・羽藤）」を踏まえながら、学術小委員会内の検討メンバーで継続審議することとなった。

## 3. 土木計画学研究発表会の準備について

- 2015 年秋大会（第 52 回@秋田大学）関連
  - ✓ 浜岡開催校担当委員が欠席のため、上記の通り学術小委員会報告に含めて報告された。
- 2016 年春大会（第 53 回@北海道大学）準備状況（報告者：内田）
  - ✓ [資料 2-1-1], [資料 2-1-2]に基づいて報告がなされた。
  - ✓ 2016 年 5 月 28 日（土）-29 日（日）に北海道大学工学部にて開催予定。

- ✓ 発表会場・会議室用の教室確保，期間中の食堂営業，託児所の開設などの準備状況について説明がなされた。また，デザインコンペは応募数により必要スペースが変わるため，実施場所について柔軟に対応する体制を整えているとのこと。
- ✓ 昨年，デザインコンペへの応募件数が激減したことについて，春大会運営小委員会では，「広報が不十分であったこと」，「主旨がうまく伝わっていなかったこと」が原因であると分析。来年度で一旦きりをつける方針が春大会運営小委員会で決定されたことが報告された。今後の展開については，次回以降に報告する。

#### 4. 平成 27 年度幹事担当タスクの検討状況報告

##### ① 役割分担（案）について（報告者：羽藤）

- [資料 3-0]に基づいて説明がなされた。
- 役務負担の平準化のため，羽藤幹事長及び当事者 2 名で協議した結果，活動評価・中期目標対応の主担当を織田澤委員から出村委員に変更することとなった。

##### ① 活動評価・中期目標対応（報告者：出村）

- 例年，年度明けに学会からの依頼が届くが，新フォーマットへの対応，執筆分担など事前に準備を進めることが確認された。

##### ② 本委員会・全国大会対応（報告者：大西）

- [資料 3-2]に基づき，委員会名簿の改訂について確認がなされた。
- 要修正：下記の小委員会を加える。
  - ✓ 30 春 小委員長 秋山孝正 健康とまちづくり
  - ✓ 30 春 小委員長 張峻屹 地方創生と若手生活

##### ③ 研究小委員会対応（報告者：出村）

- 引き続き，各小委員会に対してワンデーセミナーをできる限り開催するよう幹事会として要望することが確認された。なお，学会から予算補助などのインセンティブについては，現時点では不明とのこと。

##### ④ HP 担当（報告者：織田澤）

- [資料 3-4]に基づいて報告がなされ，CMS 化作業の進捗状況や一般向けページの拡充方針などについて報告がなされた。
- 今後の HP の整備方針に関して以下のような意見があった。
  - ✓ 外部から計画学の研究リソースにアクセスするためのポータルサイトとしての機能を拡充すべきである。現状では，「委員向け」と「一般の方向け」の情報提供を行っているが，関連他分野の方からの閲覧は想定していない。

学会としての学術的成果を社会に発信していかなければ、これまでに蓄えてきた良質な研究資産が埋もれてしまうのみならず、学会としての存在意義も揺るぎかねない。

- ✓ 現行の「論文集」ページには、主に投稿方法に関する情報が掲載されているだけで、掲載論文を閲覧できるページ（Jstage や土木学会デジタルアーカイブ）へのリンクがわかりにくい。また、計画学論文集の Jstage への移行過渡期において論文が電子化されていない期間がある。電子化を進めることが望ましいのでは？（担当は、学術小委員会？）
  - ✓ 現行のレイアウトでは、サイト右上と左側の 2 箇所にメニューがあるため、わかりにくく操作がしにくい。
  - ✓ 担当者が毎年入れ替わる現状の管理体制（担当者の役割分担）では、HP の適切に管理運営を行うは困難ではないか？
  - 以上の議論を踏まえ、HP の管理体制を含めた抜本的な見直しについて検討を行うこととなった。
- ⑤ 国際セミナー担当（報告者：長田）
- [資料 3-5]に基づいて、H27 年度上半期に開催された国際セミナーが 7 件であり、順調に推移していることが報告された。
  - 国際セミナーのメリット（会場が無料で使用できる、感謝状が出されるなど）について、引き続き広報することとなった。
  - 実務向けの英語セミナーについても積極的に情報を集め、充実化を図ることとなった。
  - セミナーでの発表資料を HP に掲載することについても今後検討を進める。
- ⑥ 国際センター・出版委員会（報告者：大沢）
- 国際センターより、委員会に関連した国際的なイベント（土木学会が主催/共催）に関する情報提供の依頼があること、50 周年記念出版、委員会関連から H28 年度に出版予定があれば申請が必要であることが[資料 3-6]に基づいて報告された。
  - 本来、小委員会の活動成果は出版物として刊行することが望ましい。今後、小委員会からも積極的に出版を募る方針が確認された。また、良質な英文博士論文の出版も奨励していくこととなった。
  - 土木学会が進める書籍電子化について、メリットが大きくはないのではないかという意見があった。
- ⑦ ワンデーセミナー・シンポジウム（報告者：大沢）
- 現時点で今年度のワンデーセミナーの実施申請はゼロであり、小委員会などに実施を呼びかける必要があることが、[資料 3-7]に基づいて報告された。

- 桑原委員長によれば,開催準備ができていない小委員会は4,5件あるとのこと。小委員会对应担当と連携して実施を呼びかけることとなった。
- 学会からの支援については,現時点で未定とのこと。
- ⑧ 全国大会研究討論会(報告者:鳩山)
  - H27年度全国大会研究討論会(9/18開催)の概要説明があった。
  - 来年度の内容については,次回に報告予定とのこと。
- ⑨ 総務担当(報告者:大西)
  - 報告なし
- ⑩ 財務WG担当(報告者:円山)
  - 委員会予算の適切な管理と有効活用を目的として,新たに設立されたWGであることが説明された。
  - [資料3-10-1],[資料3-10-2],[資料3-10-3]に基づき,委員会予算の制度及び現状について説明があった。特に,行事開催費は独立採算であり,前年度の黒字額が翌年度の調査研究拡充支援金として親委員会から配分されるとの説明があった。
  - 来年度予算は,若干減少する見込みであることが報告された。

## 5. 50周年事業及び今後の運営方針のディスカッション

- 土木計画学ハンドブック(報告者:大西)
  - ✓ [資料4-1]に基づいて,土木計画学ハンドブックがコロナ社から委託出版されることが報告された。
  - ✓ 資料の訂正:
    - 【誤】希望単価:2,800円
    - 【正】希望単価:28,000円
  - ✓ シンポジウムなどの企画も合わせて考えてもらうよう羽藤幹事長から依頼があった。
- 50周年関連事業(報告者:久保田,原)
  - ✓ [資料4-2]に基づき,プログラム案の説明がなされた。加えて,シンポジウム後に懇親会の開催も予定されていることが報告された。
  - ✓ 審議の中で以下のような意見が述べられた。
    - ◇ 全体における3.の位置づけと5.の講演における論点が問題(桑原)
    - ◇ 分量が多いので,3.を削除して4.を膨らませてはどうか?(桑原)
    - ◇ 計画学の理論的発展の観点から,1.で森杉先生 vs.金本先生はどうか?(赤松)
    - ◇ 費用便益分析の実務との関係から2.に森杉先生に登壇頂くのはどうか?

(羽藤)

- ◇ 「1. これまで」, 「2. 今」, 「3. これから」の構成とした上で, 「今」における他分野との連携について, 堀 宗朗先生 (東大地震研) なども考えられる (赤松)
- ◇ 実務との「乖離」を定義せずに議論しても (屋井)
- ◇ 世の中にどういう貢献があったかを地図上にマッピングするなどして発信してはどうか? (屋井), HP の表紙にする? (羽藤)
- ◇ 「計画学とは何か?」を事前で議論する場 (春大会?) を設けるべき (久保田)
- ◇ ターゲットを誰に設定するかが不明確に感じる (吉井), 研究者, 実務者, OB, 若手研究者, 学生をターゲットと位置づけている (原)
- ◇ 計画学の意義を内部の人々に再認識してもらおうという主旨か? (吉井)
- ◇ これまでに社会に対してどのような貢献をしてきて, 今後し得るかを外部に発信する機会と位置づけるべき (大西)
- ◇ 外部を対象とした場合には集客が問題となる. 分野自体が広いので内輪で意義を共有することも意味がある. (出村)
- ◇ テーマとして, 防災があってもよい. (塚井), 事前の打ち合わせの段階で考慮し忘れた. (羽藤)
- ◇ 外部も対象とするのであれば, 大物を呼んでもよいのではないか? (塚井)
- ◇ 盛り込みすぎの感もある. 焦点を絞って議論する機会でもよいのではないかと思う. (円山)
- ◇ 交通工学会 50 周年行事で新谷先生が講演される可能性が高い. (久保田)
- ✓ 以上の議論を踏まえ, 再度 WG で検討した上で次回の幹事会までに方向性を示すこととなった. なお, 準備委員 (若手) の公募を実施する.
- 大会プログラム運営方針 (報告者: 赤松, 羽藤)
  - ✓ [資料 4-3], [当日配布資料]に基づき, 研究発表会 (秋大会) プログラム運営方針の改善案について説明がなされた後, 以下のような審議が行われた.
  - ◇ 学術小委員会でも, 学生発表と論文集へ繋がる研究発表を分けて運営という議論があった (藤田)
  - ◇ 全国大会との役割分担については数年前にも議論がなされたが, 参加費減額などの特別措置を計画学だけで行うことは許されないとのこと. (塚井)
  - ◇ 当初は, 審査付き発表方式があった. 現状において 30 分かける必要がある論文はどのくらいあるか? ショットガン+ポスター発表といった形式もある. (屋井)

- ◇ 研究と教育の機能のどちらも必要であり、それらをどのように確保するかについては、全体（春大会，秋大会など）を見ながら検討を進めるべきである。（屋井）
- ✓ 以上の議論を踏まえた上で、提案された改善案を試行し、問題があれば修正する方向で進めていくこととなった。

（文責：織田澤）